

最新デジタル技術で銅鐸の調査・研究を進めています

～ワークショップ開催～

市内で出土した銅鐸は破片を含めて21点現存しており、全国的に見ても銅鐸の出土が多い地域です(市が所蔵しているのは10点)。市では、2025(令和7)年から数年かけて、1点ずつ銅鐸のデジタルデータ(三次元データ)を取得し、これまでは難しかった正確な計測と詳細な分析を行っています。

銅鐸とは……弥生時代の青銅器で、つり下げて音を鳴らすベルのような形をしている。農耕に関わる儀式に用いられたと考えられている。市所蔵の銅鐸は高さ60cmから100cmほどの大きさ。



作業風景



銅鐸を知っていますか

浜松周辺の銅鐸出土地



過去に銅鐸が出土した地域(破片を含む)を緑色の円で示しています



博物館学芸員

左の分布図で分かるように、都田川や芳川の近くなどで出土しています。JR天竜川駅(中央区天龍川町)付近でも破片が発見されました。

身近な場所で見つかったんだなあ。



日本で銅鐸が出る地域の中では、浜松周辺が東の端になります。また、浜松では近畿式と三遠式という2種類が出土しており、弥生時代の人々がさまざまな地域とつながりを持っていたことが分かります。

銅鐸ワークショップを開催します

銅鐸の三次元データ取得の成果を生かし、銅鐸を3D画像で観察するワークショップを開催します。銅鐸そのものは貴重な資料であるとともに壊れやすいため、通常はケース越しに見学します。3D画像では、ケース越しではできないような内側や細部の観察ができます。



銅鐸ワークショップ

～銅鐸を3D画像で見よう～

展示室で銅鐸の実物を見ながら説明を受けたあと、3D画像を画面で動かしながら観察します。子供を主な対象としたイベント「春休み体験館」の期間中に実施しますが、誰でも参加できます。

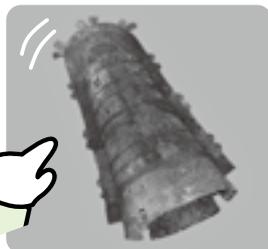
場所:博物館(中央区蛸塚四丁目22-1)

日時:3月20日(金) ①11:00～11:30
②14:30～15:00

※当日、直接会場へ

※参加費は無料。ただし観覧料は必要(中学生以下と70歳以上を除く)

動かしてみよう



端末の画面を操作して、さまざまな角度から銅鐸を観察することができます。

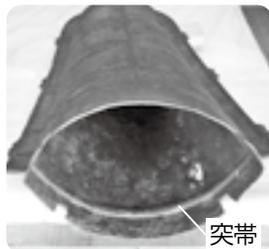
※開発中のイメージを掲載しています

拡大してみよう



文様を拡大して観察することができます。

内側をのぞいてみよう



音を鳴りやすくするための工夫である突帯(とつたい)を観察することができます。

銅鐸の3D画像をインターネットでも見られるよう、公開の準備を進めています。公開したら市ホームページでお知らせします。

市HP

博物館

検索

